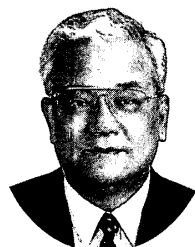


副会長からのメッセージ

日本品質管理学会の活性化を期待して



広島工業大学 工学部 教授
久保田洋志

このたび副会長（第33年度）と編集委員長（第33～34年度）に就任し、Q-Japan構想を提唱している会長のスタッフとして、社会に貢献するとともに、会員のためになる学会としての機能強化に尽力したいと思っています。

製品・サービスの提供活動を実施しているすべての組織にとって、品質管理（Quality Management）は不可欠なマネジメント技術であり、変化する環境に適応するために自己組織化/自己変革する組織は、環境と技術の不確実性への現実的対応を迫られていると認識しています。

日本品質管理学会は、現実世界を説明し深い洞察を与える記述的理論研究と歴史的研究、および現実世界への対処に有用な概念枠組み、方法論、手法などの方策論的研究の場です。これら3つの研究論文に共通している要件は、無矛盾性、独創性、現実世界に対する説明力と貢献性ですが、論理厳密性については研究対象によって異なると考えます。例えば、SQCや信頼性などでの数学的方法論の研究では、論理厳密性は重要要件であるのに対して、品質マネジメントやTQMなどの活動が実践される現実世界は、多様度の高い社会技術的システムと認識すべきであります。したがって、学会で扱われる科学的理論には、多様度の高い曖昧な概念の使用と観察の理論負荷性が不可避で、再現性と要素還元が馴染まない社会科学理論も含まれることとなります。

飯塚会長のQ-Japan構想は社会技術的であり、品質管理の専門家集団が貢献すべき日本の課題と方向を示したものと認識しています。編集委員会では、Q-Japan構想を積極的に学会誌の特集に取り

上げることを企画しています。それを通じて学会として社会に貢献すると同時に、学会員のサービス向上に努めたいと思っています。

企業と同様に、学会も社会的存在価値が問われていて、頼りになる存在、不可欠な存在、尊敬される存在になっていく必要があります。学会と学会員および社会との良好な関係性の構築が不可欠であります。

日本品質管理学会の会員構成は、大学人が少なく、企業人が多いことが特徴です。企業人会員は、職務遂行上有効な情報の収集、所属機関・経験・専門領域などが異なる多様な会員との相互啓発、社会貢献および情報発信の機会を期待しているのに対して、大学人会員は、研究成果を論文として発表する機会、社会貢献、現実世界の観察、実務の専門家との交流などを期待していると推察いたします。品質管理領域の研究活性化の前提となる大学人会員増加は、学会のみならず日本の重要課題であります。他方、日本の品質に対する国際市場での高い評価は企業活動の成果であり、企業人会員の貢献は多大であると敬服しています。企業人会員の期待にこたえていくことは、質の高い業務遂行と改善を継続的に実施する支援を含意し、学会の責務であり、企業人会員と学会との関係を充実・強化していくことも重要課題であります。さらに、会員構成の特徴を活かして、企業人会員と大学人会員間の相互作用を活性化し、研究と実践の質を向上させる状況を創出することも重要課題であります。

これらの課題に対する編集委員会の役割の重要性を真摯に受け止めて、皆様と一緒に活動をして参りたいと存じます。ご指導、ご支援、ご鞭撻のほどよろしく、お願いいたします。